

## 目黒税務署長賞

### 税がつなぐ私たちの日常

目黒区立目黒中央中学校 三年

林 美波

「税」について考えるにあたり、まずは漢字の語源について調べてみた。一説によると「税」はのぎへんの「禾」と「兌」の左右に分解でき、その語源は、実った収穫の一部を抜き取ることである。こうしたことから多くの人が、「払いたくない」「負担が大きい」と考えるのかもしれない。しかし、こんな単純な考え方で良いのだろうか。

私たちの普段何気ない日常生活を振り返ってみたい。朝起きて、蛇口をひねれば綺麗な水が出て、顔を洗つたり歯を磨いたりする。舗装された道路を歩いて通勤・通学をする。学校に行けば机、イス、エアコンなど設備の行き届いた教室で勉強し、お昼になれば給食が提供される。病気になれば何の心配もなく病院を健康保険で受診する。これらは、決して当たり前ではない。なぜ、このような生活が実現できているのであるか。それは、健康で豊かな生活を支え、実現するために、その費用を税金として、国民一人一人が出し合って公平に負担しているからである。日本には約50種類の税があり、納めた税金の額に関わらず、誰でも国や地方の公共団体から、公平にサービスを享受できるようになつてい

る。

目黒区の令和七年度の一般会計の総予算は約1400億円で、歳入の約87%を区民税はじめ、国や都からの交付金で賄っている。一方歳出では、約47%を健康福祉費として、出産・子育てや高齢者等の福祉サービスに使われるほか、約16%を教育費として、小・中学校や図書館の運営・整備や給食費の無償化に使われる見込みである。このことから、私たちの日常生活のさまざまな活動が税金によって支えられていることを実感するとともに、改めて生活に必要不可欠であると考えた。

今回、税金について考えてみて、その使われ方や、なぜ国民が納めなければならないのかなどを知ることができた。税金を納めなくなつたら、今当たり前に受けられている公共サービスもなくなり、治安も悪化し、安心して安全に暮らすことが難しくなつてしまふだろう。

今、日本では少子高齢化が進み、高齢者の年金や医療費など社会保障の費用が増え、それを支える労働人口が減少している現状がある。税収が減れば、医療費負担の増大や公共サービスの縮小、年金額の減少など社会の根幹が揺らぎかねない。税金を納めることに対して否定的な意見もあるが、私たちが納めている税金は、自分自身の生活や教育などに還元され、社会を発展させ生活を豊かにしている。このことが分かれば、「税」への見方が変わるのでないだろうか。